



静止気象衛星ひまわり 8号データ品質評価の協力者の募集

気象庁 気象衛星センター

気象庁では、2014年に次世代静止気象衛星「ひまわり 8号」を打ち上げ、2015年夏頃から運用を開始することを計画しています。この衛星では、現在のひまわり 6号・7号（運輸多目的衛星シリーズ）に比べて、時間・空間分解能や観測バンド数などが大幅に向上します（第1表）。なお、ひまわり 8号の詳細については、佐々木・操野（2011）や気象衛星センターのホームページ <http://mscweb.kishou.go.jp/panfu/himawari89/>を参照してください。

当庁では、ひまわり 8号の能力を十分に気象業務に生かすべく、業務プロダクトの新規開発や既存のプロダクトの改良を進めるとともに、平成21年度から「静止衛星データ利用技術懇談会」（座長：中島映至東京大学大気海洋研究所教授）を開催し、大学等の研究コミュニティの専門家から、当庁のプロダクト開発等について貴重なご意見をいただくなど、オールジャパンで次期ひまわりデータの最大限の利用促進を図る取り組みを進めています。

この取り組みの一環として、ひまわり 8号データの気象学的な品質情報の充実を図ることを目的として、ひまわり 8号の運用開始に先立って試験運用期間中の「評価用データ」を用いた標記データの品質評価にご協力いただける気象庁外の研究者の方を募集いたします。

なお、今回の品質評価の成果をもとに、ご協力いただく研究者との更なる連携による気象庁での現業利用を想定したプロダクトの共同開発への発展の可能性についても、上記の「静止衛星データ利用技術懇談会」において検討を進める予定です。

【応募条件】

- 原則として、協力者は、観測放射輝度データからリトリブされる各種物理量（雲の光学的厚さ、地表面アルベド、海面水温等）を各自のアルゴリズムで算出し、その精度検証結果にもとづく品質評価を主な研究目的とすること。

第1表 ひまわり 8号のイメージャ仕様。

バンド		中心波長 (μm)	衛星直下点での解像度 (km)
1	可 視	0.46	1
2		0.51	
3		0.64	0.5
4	近赤外	0.86	1
5		1.6	2
6		2.3	
7	赤 外	3.9	2
8		6.2	
9		7.0	
10		7.3	
11		8.6	
12		9.6	
13		10.4	
14		11.2	
15		12.3	
16		13.3	

- ひまわり 8号の試験運用期間終了後1年以内に品質評価報告を提出すること。査読付論文を推奨するが、報告の形式は問わない。
- 品質評価のために提供するデータ（以下、「評価用データ」）及び関連情報を第三者に提供しないこと。
- 「評価用データ」の利用案内等の情報提供は日本語のみで行うので、日本語を理解できること。

【評価者の選考】

- 定員10名程度
- 応募者は次の優先順位で選考する。
 - 国内の大学、研究機関に属する方。
 - ひまわりもしくは他の気象衛星・地球観測衛星データを利用した論文を筆頭著者として執筆した実績のある方。

【応募先と応募受付期間】

- 応募は、応募フォームに必要事項を明記の上、met-

sat [at] met.kishou.go.jp ([at] は@)宛に「ひまわりデータ評価希望」の件名でメールを送付願います。

- 応募フォームについては、気象衛星センターのホームページをご覧ください。(http://mscweb.kishou.go.jp/panfu/himawari89/application_form)
- 応募受付期間は、2014年3月3日(月)から3月14日(金)まで。
- 選考結果は、応募受付期間終了後2週間以内にメールにて通知します。

【留意いただきたい事項】

- 提供する「評価用データ」は、実際に運用開始後に配信する「ひまわり標準データ」で、ひまわり8号が運用を開始するまでの試験運用期間中に観測されたものの一部です。なお、「ひまわり標準データ」

の仕様については上記の気象衛星センターのホームページで提供しており、「ひまわり標準データ」から必要な情報を読み出すためのサンプル・プログラムも併せて提供する予定です。

- 試験運用期間中のひまわり8号の観測データでは、試験結果等に基づき、放射輝度の較正及び画像の位置合わせのための幾何学的補正の方法が変更される場合があります。その場合は、変更に係る情報は提供しますが、「評価用データ」自体の再処理・提供は実施しません。

参 考 文 献

佐々木政幸, 操野年之, 2011: 静止地球環境観測衛星ひまわり8号及び9号について. 日本リモートセンシング学会誌, 31, 255-257.